

高等学校における教科指導の充実

地 理 歴 史 科

歴史的思考力の育成を目指した
世界史の課題追究学習

栃木県総合教育センター
平成20年3月

ま え が き

教育課程実施状況調査や学力に関する国際的な調査では、日本の高校生の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされ、文部科学省等からも学力向上のための様々な対策や提言がなされています。このような中で、平成19年4月には、小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、国語科、算数・数学科の2教科で、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。10月末に公表された調査の結果から指摘された課題は、小・中学校においては喫緊の課題となっていますが、一朝一夕に解決することは難しい問題であると思われます。したがって、小・中学校における現在の課題は、とりもなおさず高等学校の課題としても引き継がれることになるでしょう。また、12月には、2006年のPISA調査の結果も公表され、科学的リテラシーをはじめ、数学的リテラシー、読解力を向上させるための対策が急がれる結果となりました。

各学校においても、教育活動の充実・改善に努めているところですが、特に教科指導においては、限られた時間の中で効果的な指導を展開して、生徒の学力向上を図ることは言うまでもありません。

これらのことを踏まえ、総合教育センターでは、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」に取り組んでいます。この調査研究の目的は、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、学力の向上に資することにあります。

今年度は、国語科、地理歴史科、数学科、理科において、教育課程実施状況調査の調査結果等から指摘されている課題を踏まえ、その解決を図るための授業改善の方策等について研究に取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を、各学校の実情に応じて有効に御活用いただければ幸いです。

最後に、今年度の調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成20年3月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙 一

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
事例1 国家が繁栄した理由について考察させる授業・・・・・・・・	2
事例2 歴史的事象について、絵画資料の読み解きを通して考察させる授業・・・	18
事例3 歴史的事象について、その理由・背景に着目して考察させる授業・・・	32
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41

歴史的思考力の育成を目指した世界史の課題追究学習

はじめに

現行の学習指導要領においては、生徒の世界史学習に対する関心・意欲を高め、歴史的思考力を育成するために、「主題を設定し追究する学習」が内容に位置付けられ、その充実がうたわれている。しかし、平成17年度高等学校教育課程実施状況調査（国立教育政策研究所）の教師質問紙調査の結果では、「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか」という質問に対し、否定的な回答が87%であり、前回調査時（平成15年度）の81%に引き続き、非常に多くなっている。生徒質問紙調査の結果でも、「世界史の授業でテーマを設けて調べる学習は好きですか」という質問に対し、「テーマを設けて調べる学習をまったく又はほとんど行っていない」という回答が60.3%で最も多く、「好きだ」という回答は8.2%と少ない。討論したり、レポートにまとめたり、発表したりすることが好きだと回答した割合も同様に低かった。

このようなことから、本調査研究では、世界史における「主題を設定し追究する学習」（以下、「課題追究学習」とする）の工夫について取り組んだ。

学習指導要領では、課題追究学習は、導入部や終末部に位置付けられている。導入部でのねらいは、生徒の関心や意欲を高めることであり、終末部でのねらいは、それまでの学習成果を応用し歴史認識を確かにすることである。本研究では、歴史的思考力の育成のためには、日常の授業の中で継続的・反復的に課題追究学習を行うことが必要であると考え、導入部・終末部に限定せずに授業実践を行うこととした。

なお、本研究では、歴史的思考力のうち、歴史的な事象を多面的・多角的に考察する力、歴史的な事象を歴史的な文脈の中で理解する力、歴史的な事象の意義について考察する力を育成することを主なねらいとした。また、各実践の結果として、歴史への興味・関心が高まるとともに、歴史に対する理解が深まり、知識の定着が促されることも期待した。

各事例の実践内容は次のとおりである。

事例1 国家が繁栄した理由について考察させる授業

「オスマン帝国の成立と発展」と「オランダの独立と繁栄」を題材とし、その繁栄の理由を、既習事項をもとに考察させることにより、歴史的な事象を多面的・多角的に考察する力や時代の特徴を的確に把握する力の育成を目指した。

事例2 歴史的な事象について、絵画資料の読み解きを通して考察させる授業

近代ヨーロッパの絵画資料を読み取り解釈することを通して、歴史的な事象を歴史的な文脈の中で理解する力や、歴史的な事象の意義について考察する力の育成を目指した。

事例3 歴史的な事象について、その理由・背景に着目して考察させる授業

歴史的な事象の理由や背景についての問いかけを中心に授業を組み立て、考察や仮説を記述させる学習活動を反復して行うことにより、歴史を原因と結果のつながりとして捉え、歴史的な事象を歴史的な文脈の中で理解する力の育成を目指した。

＜研究協力委員＞

栃木県立宇都宮東高等学校	教 諭	宇都木 修 一
栃木県立小山南高等学校	教 諭	赤 坂 賢 一
栃木県立烏山女子高等学校	教 諭	大 森 淳 子

＜研究委員＞

栃木県総合教育センター 研修部	指導主事	阿久津 如 子
-----------------	------	---------